

行事のご案内

- 1月1日 (月) 午前10時 修正会
- 1月2日 (火) 別院閉館日
- 1月7日 (日) ダルマスクール新学期
- 1月13日 (土) 午前10時 報恩講セミナー
- 1月14日 (日) 午前10時 御正忌報恩講
- 1月21日 (日) 午後1時 祥月永代経法要
- 1月28日 (日) 午前10時 別院役員就任式
- 2月4日 (日) 午前10時 如月忌法要
- 2月11日 (日) 午前10時 涅槃会
- 2月11日 (日) 午後1時 祥月永代経法要

Los Angeles Hampa Hongwanji Buddhist Temple
2024 Service Schedule

Special Guests

Hoonko Seminar
10:00 am, Jan. 13th, 2024
Hoonko Service
10:00 am, Jan. 14th, 2024

BWA Kisaragi-ki & BWA Late Members
Memorial
10:00 am, Feb. 4th, 2024



Rev. Dr. Nobuo Haneda
-Maida Center-

Rev. Dr. Kenji Akahoshi
-BCA Minister Emeriti-

Rev. Nobuo Miyaji
-BCA Minister Emeriti-

Rev. Ryuta Furumoto
-Senshin-

2024年
年忌法要早見表

1975年	1992年	2000年	2002年	2008年	2012年	2018年	2022年	2023年
五十回忌	三十三回忌	二十五回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌	一周忌

本派本願寺羅府別院

サーフ&ターフ夕食会



日時: 3月2日 午後4時~午後7時
メニュー: ビーフ or サーモン定食
金額: 1食35ドル
ご注文は事前受け付けのみです!!

- 全てのお食事はテイクアウトの状態で提供します。
 - 館内での食事も可能です。
 - 料理の数には限りがあります。
 - 午後7時を過ぎてお料理を取りに來られなかった場合、お受け取りの保証はできません。
 - 館内で定食の販売はいたしません。
- イベントの収益は全て西別院に寄付されます。



発行所
本派本願寺羅府別院
815 E. First Street
Los Angeles, CA
90012
Tel: (213)680-9130
Fax: (213)680-2210
E-mail:
info@NishiHongwanji-la.org
Website:
www.NishiHongwanji-la.org



年頭の辞

新しい年のはじめにあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年世界各地で地震・洪水・山火事など様々な災害が起こり、多くの方が被災されました。特にハワイ・マウイ島における山火事ではライナ本願寺の本堂が全焼し、メンバーの方々の被害も報告されています。ここに災害によってお亡くなりになられたすべての方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。皆さまが一日も早く、日常の生活を取り戻されますことを願っております。

また、2023年12月に始まったロシア連邦によるウクライナ侵攻はまだまだ続いており、2023年10月以来、イスラエルとパレスチナの武力衝突では関係国を巻き込んで、民間人を含む多くの犠牲者が出ています。私がいま思い起こしますのは、「すべての者は暴力におびえ、すべての者は死をおそれる。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。」(『ダンマパダ』第226偈)というお釈迦様のお言葉です。

この世に生を受けた私たちは、いかなる理由があろうとも等しく人権が保障され、命が脅かされるようなことがあってはなりません。しかし、現実には世界各地で紛争やテロが勃発し、生存の権利が脅かされている人々が数多くおられます。平和主義を掲げる仏教徒である私たちは、お釈迦様のお言葉を深く心に刻み、国際社会の平和と安全に大きく貢献することが求められています。

さて、昨年は本願寺において2月29日より5月22日までの5期23日間にわたり、「親鸞聖人御誕生2800年立教開宗2800年慶讃法要」をお勤めいたしました。ご参拝くださいました皆さま、お力添えを賜りました皆さまに心より感謝申し上げます。私たちが立教開宗2800年の慶讃法要をお勤めできましたことは、時代や場所を超えて多くの先人の方々が、浄土真宗のみ教えを生きる支えとして、今日まで大切に受け継いでこられたからに他なりません。

これからもみ教えを聞き、それを支えとして、一日一日を大切に過ごしてまいりましょう。

二〇二四年一月一日

浄土真宗本願寺

門主 大谷光淳

本派本願寺羅府別院

輪番法話



輪番

ウィリアム ブリオネス

年頭の御挨拶

花は咲く緑が集まって咲き、葉は散る緑が集まって散る。ひとり咲き、ひとり散るのではない。緑によって咲き、緑によって散るのだから、どんなものも、みなうつり変わる。ひとり存在するものも、常にどよめくものもない。すべてのものが、緑によって生じ、緑によって滅びるのは永遠不変の道理である。だから、うつり変わり、常にどよめかないというものは、天地の間に動くことのないまことの道理であり、これだけは永久に変わらない。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。Keinoのニュースレターを毎月オンラインで受け取っているのですが、つい教週間前のことでした。私の目に留まったのは表紙に掲載されている見覚えのあるお顔でした。それはコミュニティの方へのインタビュー記事に関するものでした。インタビューで問いかかれた質問は「あなたにとって人生最大の教訓は？」というものでした。もちろんそれに対する回答は様々です。そのとき私は自分にこの問いを尋ねてみました。そして私ならどう答えるだろうか、と考えたのです。
新型コロナウイルスが猛威を振るっていた時期、マウンテンビュー仏教会が作成したお盆のメッセージにはこのような言葉がありました。「Change Happens (変化は起こる)」先の質問を考えたとき、このシンプルな言葉こそが私の答えだと思いました。(四圍)

「新」羅府別院理事長



理事長

カワサキ ケン

この文章を書いている今はまだ年内です。これを読まれている頃は「年末年始忙しかったね」と振り返っている頃でしょうか。

ご挨拶いたします。私、カワサキケンはこの度、西別院理事長の席に就かせていただくことになりました。私が別院の理事長になると誰が予想できたでしょうか。昔から私を知っている人にとつて、今年最初の驚きのニュースになったかもしれません。

私の挨拶で紙面の余白がなくなるといけませんから手短かに。私は次期理事長として、三年間別院の運営に携わる中で、多くの困難を目的の当りにしてきました。世の中が大変な時、お寺を維持することはまた大変です。幸運なことに、私たちに田端パムさんという強い女性がリーダーシップを発揮してくれました。彼女の功績と苦勞はたくさんあります。もし田端さんに声を掛けることがありましたら、彼女にお疲れ様と言ってあげてください。

将来を考えると別院には課題が山ほどあります。これを乗り越えるためには走り回らないといけないでしょう。その為に少しでも動きやすいよう、「メッセージ短パンが私のユニフォームです。大変短い挨拶ですが、皆さまこれからどうぞよろしくお願いいたします。合掌



写真左：川上ジン、右：平原テレサ

西別院仏教婦人会 新会長

平原テレサ

新年明けましておめでとうございます。また一年が過ぎて、2024年になりました。西別院仏教婦人会は年始早々から動き出しています。でも、これは楽しいことです。私たち婦人会は、料理中、行事中、会議中でも「楽しく」をモットーとし、笑顔は私たちのチャームポイントです。

前会長の川上ジンさんが昨年末もって任期を終えました。彼女は三年間、パンデミックの時期から昨年末まで婦人会会長として卓越したリーダーシップを発揮し、私たちの活動を引っ張ってくれました。いつもエネルギーが溢れ、他人に優しく、独創的なアイデアと彼女の豊富な知恵を駆使して、様々な状況に電光石火の如く対処されたことが印象的です。

彼女の功績に敬意を払う一方、私、平原は改めて歴史ある西別院仏教婦人会の会長という職務を全うする機会に恵まれたことを幸運に思います。どうぞ新米の会長です。皆様の最良を頂戴したく存じ、新年の挨拶兼就任のメッセージをここに記します。合掌

新アシスタント!



ディギリオ・ジョン氏

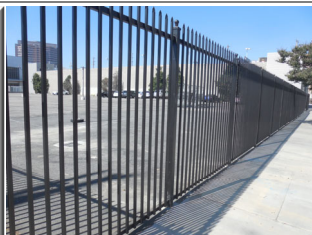
11月、原田総長ご臨席のもとディギリオジョンさんの*ミニスターズ・アシスタント認定式が執り行われました。以前から仏教の興味があったジョンさん。20年間座禪を通して仏道に励みましたが、阿弥陀仏の本願に出あつてから西別院に通うようになりました。別院では経験を活かし別院図書室の拡充に貢献、お盆カーニバルのお手伝い、ABAのメンバーとしても活動など別院メンバーと懇親を深める一方、新しい参拝者と会話もされておりサンガを盛り上げることに積極的です。また、個人でブログを通じてご本願を広める活動もされています。(https://beingbomhu.com/)

帰敬式を経て、感謝のお念仏の道を歩むようになり、先日のMA認定式を経て、別院の歴史上初めてのMAとなられました。今後は開教使の先生と協力して、今まで以上に念仏弘通(伝道)に進まれます。ジョンさんの活躍に期待ください。

*MAプログラム: BC公認のMAと呼ばれる門信徒は一定の浄土真宗に関する知識を学ぶことで、開教使の法務を補佐することができます。

新しいフェンスの設置工事 進行中

現在、古くなった塀を入れ替える作業が続いています。新しいフェンスは従来型よりも高さがあり、防犯効果が期待できます。昨今は夜間に塀をよじ登り無断で敷地に侵入する人が後を絶ちません。新フェンス設置への皆様からのご志は大歓迎です。よろしくお願ひいたします。



別の日、別の時 京極逸蔵開教使夫人の

増山 栄子 翻訳・伊藤 千鶴子

回想より

私たちはロサンゼルスに配属されました。当時、お寺には二十二鉄鏡、池聴水開ほか多数の日曜学校の生徒がおり、他に本願寺から南カリフォルニア大学に留学するために派遣された学生開教使がいました。...

日曜学校設立の背景にこんな小話があります。私たちがロサンゼルスに引越してすぐ、日系社会の指導者たちの会合で夫がこんな事を耳にしました。ある牧師がつぶやきました。...



1920年、本願寺日曜学校、大和ホール二階本堂

- 1列目 左端 池開教使
2列目 右側 京極開教使
2列目 右側、最後から3番目の少年、増山 栄三
3列目 左側 1番目の少年はやまてまさお?
3列目 右端、赤ちゃんと一緒、荒谷トク夫人?
上段、左から右へ、3番目、縮川開教使、8番目、小野開教使

一世たちは海を越え言葉も風習も慣れない土地にやって来ました。多くの苦難に耐えられたのは両親から受け継がれた念仏と信心のお陰だったはずで

ら。「これを聞いて居ても立っても居られなくなつた夫は、メンバーと学生開教使の協力を得て、日曜学校を設立したのです。

感謝録：下記の方々からアーカイブ室に資料を提供いただきました。

- ジーン・アカシ、ジョン・ディジリオ、ロバート・おだ、マイケル・リチャーズ、パム・田端、たなか・みつよ、アイリーン・いながき、リンダ・いながき、リチャード・おだがわ、グレン・タオ、アラン・タオ氏

100%の力

最後に全力で走ったのはいつの日か。大人になると全力で運動する機会がぐっと減りました。

最近、久しぶりに全力を出しました。合気道の練習が休みだった日、別院の柔道クラブにゲスト参加しました。指導員の田中ダン先生にお願いをして、柔道の投げ技や寝技を教わりました。...

柔道の稽古を通してある学びを得ました。100%の力を出さない、あるいは出せなくなっていることは、自分自身に問題があるようです。全力を出すためには頭の中を空っぽにしなければいけません。...

浄土真宗では罪悪生死の凡夫という言葉があります。ここで言う罪とは、自分を苦しめる原因の全てを指します。私たちは自分が思っている以上に苦しみをたらす原因を自らの手でたくさん作っています。...

執筆村上響 開教使

（二面）人生のほとんどの時間を私は健康に過ごしてきました。動くのは好きでしたから、ランニングやバイク、ハイキングにスキー、エクササイズも楽しんできました。けれど、数年前から続いていた背中の痛みは昨年とうとう耐え難いものになってしまいました。絶え間のない痛みで歩くこともままならず、日常の業務にも支障をきたしました。いつも痛みで頭がいっぱいになり、その痛みは私の人生までも支配していくような感覚でした。整形外科の先生に診察してもらった結果、脊柱管狭窄症と診断されました。かかりつけの医師にも専門医にもこのまま放置すれば一生歩けなくなると言われました。

私たちは変化を好みません。健康で快適で幸せな毎日、大切な人と過ごす時間がずっと続いて欲しいと願うものです。しかしながら現実はそのほいほいしません。それほど健康な人も病気になるります。年をとります。そしていづれ人生を終えていくのです。その現実には正面から向き合うことは易しいことではありません。けれどもその現実から逃げ続けることは、結果としてより辛い状況に自分を追い込むことになるのです。

冒頭にご紹介した一節は仏教聖典からの引用です。諸行無常の真理を鮮やかに私たちに知らせてくれています。諸行無常は仏教の根本的な教えです。それはあらゆる存在は変わらないものはない、という教えです。この世の全てのものは常に移り変わっていきます。この真理に領くことがなければ、物事をありのままに見るといふ目覚めも経験することはありません。釈尊は、この諸行無常の真理に目覚めることを通して、初めて私たちは自らの不安や悩みを理解することができると、説いておられます。変わっていくことが当たり前の事実を受け入れることができず、変わらなれないものとして執着するとき、心配や恐れが生じてくるのです。日常生活において失望、絶望感や不満を感じるがよくあります。これが私たちが諸行無常の真理に暗いことから生じているもので、本来は感じる必要のないものなのです。諸行無常の教えを私たちの身の事実としてしっかりと受け入れたとき、人生において起こる問題に勇気をもつ

て向き合う力を賜るのでしよう。それは不安や怒りから解放される生き方を学ぶということでもあります。真理に従って生きることにこそが本当に充実した幸せな人生となるのではないのでしょうか。

一生歩けなくなるかもしれないという可能性が突きつけられれば、我が身を振り返る縁となりました。そして何が本当に必要なことなのかを考えさせられました。家族や友人、数えきれない人から受けた支えや優しさに改めて気づくことができました。痛みのない生活がいかにありがたいものであったかに気づくと同時に、かけられている思いやりや氣遣いが私の身を包み、そしてこの身から溢れているのを感じます。

「変化は起こる」その通りです。変化は私たちを励ましたり、がっかりさせたりするでしょう。幸せや不幸せをもたらすかもしれません。喜びや不安を感じさせることでしょう。私たちがどのように受け止めようとしても、あらゆる存在は移り変わっていく、ということが現実なのです。

最後になりましたが、昨年一年を通してお世話になった皆さまに重ねて御礼申し上げます。療養中には多くの皆さまからお見舞いや激励を賜りましたこと、この場をお借りして深く感謝申し上げます。休養期間中に別院の業務を滞りなく遂行してくださった村上響開教使をはじめ、寺務所スタッフの藤江理恵さん、一貫田ヴァンス氏にも心から御礼申し上げます。またボランティアの方への感謝も言葉では足りないほどです。本当にありがとうございました。顧問の役員や理事会の皆さまにも多大なるご支援を賜りましたこと、重ねて御礼申し上げます。一月には別院に復帰できる予定です。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

2024年が皆さまとご家族にとって実りの多い素晴らしい一年となりますことを心より祈念いたします。



今年もよろしくお祈りします
2024

お知らせ!! アーカイブ/ライブラリー委員会は、別院所蔵の図書を検索できるオンラインカタログを公開しました。カタログの作成・開発は、本委員会メンバーのデイギリオジョン氏の多大なるご努力のもと完成されています。現在は英語図書をタイトルや著者名などから検索できます。今後のアップデートでは、日本語の検索機能も追加予定です。図書検索は下記のURLからアクセスできます。LAHBTLibrary.org 別院書庫の貸出も受け付けております。ご興味のある方は、デイギリオ氏までお問い合わせ下さい。 → jdgilic@gmail.com



11月19日に総永代経法要が勤修されました。迎えた宮地崇先生は現在、南アラメダ仏教会の開教使として、西別院で育ったことをご存じですか。87年から99年まで、父の宮地信雄先生が西別院に駐在中は、姉弟のミチコ、アツシと一緒に幼少期をロサンゼルスで過ごしました。祖父に本願寺勸学宮地麻慧師を持ち、祖父と同じく宗学の道に進まれました。9月に勤められたBWM恵信尼・覚信尼追悼法要では、お母様の美子師が講師でお取次ぎをされた際、崇先生が初めて別院に参拝された日のお写真も披露されました。

写真上↑
87年の春彼岸法要。本堂エントランスにて宮地家の家族写真

写真上↑
総永代経法要の崇先生

写真左
恵信尼覚信尼追悼法要での美子先生